

(第2号様式)

沖工第 2327 号  
令和6年 3月25日

沖縄県教育委員会教育長 殿

沖縄県立沖縄工業高等学校  
校長 喜屋武 勝  
(公印省略)

令和5年度県立学校学校評議員の運営状況について(報告)

令和5年12月12日付け教県第1744号により依頼のありましたみだしについて、下記のとおり報告します。

記

1 日時、場所、出席状況等

回数	日時	場所	出席状況
第1回	令和5年7月18日(火) 16:10~17:00	本校小会議室	評議員4名、学校職員7名
第2回	令和5年12月22日 (金)16:10~17:00	本校小会議室	評議員3名、学校職員7名
第3回	令和6年3月15日(金) 16:10~17:00	本校小会議室	評議員4名、学校職員7名

2 学校評議員に求めた事項

- ・学校経営方針への助言
- ・生徒の活動状況への助言
- ・生徒指導への助言
- ・進路指導への助言

3 学校評議員の意見

- ・薬物に関して、沖縄は手に入りやすい環境があるのではないかと。薬物乱用防止講話以外にも取り組んでほしい。
- ・実際に薬物所持や使用で生徒が検挙された時の対応を具体的に考えていた方がよいのではないかと。
- ・勤怠状況が悪い背景には、ヤングケアラーの問題もあるのではないかと。コロナ禍の影響で家庭の経済状況が悪くなっている生徒もいる。
- ・出席率の改善は、すぐには改善しないと思う。コツコツと「支援」というかたちで取り組んで欲しい。
- ・公民館おたすけ隊(中高生対象)では沖縄工業の生徒の登録数が一番多い。参加率も高く、司会等活躍してくれている。
- ・進路指導部はやはり早期決定率の高さ、進路先の企業も誇れるものである。課題として、早期決定後の生徒指導の対応もお願いしたい。
- ・高校入試の定員割れについて、工業高校は、資格取得が特徴的だと思う。マスコミ等の活用も必要ではないか。
- ・ものづくりをとおした生徒の自己実現が大切だと思う。新聞への投書等学びを言語化できる文章力、表現力がつけば強力な武器となる。そのような力を育てるカリキュラムを行ってほしい。

4 学校運営に反映した事項

○地域との連携

懲戒指導の一環で繁多川公民館でのボランティア活動、隣接する松川共同住宅でのボランティア活動等、地域と関わる取組に努めた。また、次年度は地域の小学生(松川小、識名小)を招待し、本校での体験学習を予定している。

○ホームページ等広報の充実

学校全体の行事や各学科の授業の様子、資格取得や部活動の実績等、ホームページの更新回数を増やし情報発信に努めた。

○生徒指導部から生徒支援部へ

生徒指導と教育相談を合わせた生徒支援部とし、新指導提要に対応した指導体制を確立した。

5 課題その他

- ・高校入試で定員割れの状況が続いていることへの対策。(情報発信や取組の工夫)
- ・コロナ禍で欠席することに慣れた学校生活(生徒の生活習慣等)の改善。
- ・薬物乱用防止に対する理解の深化を図る。
- ・学びの言語化を意識した特別活動、キャリア教育の推進。